

1章

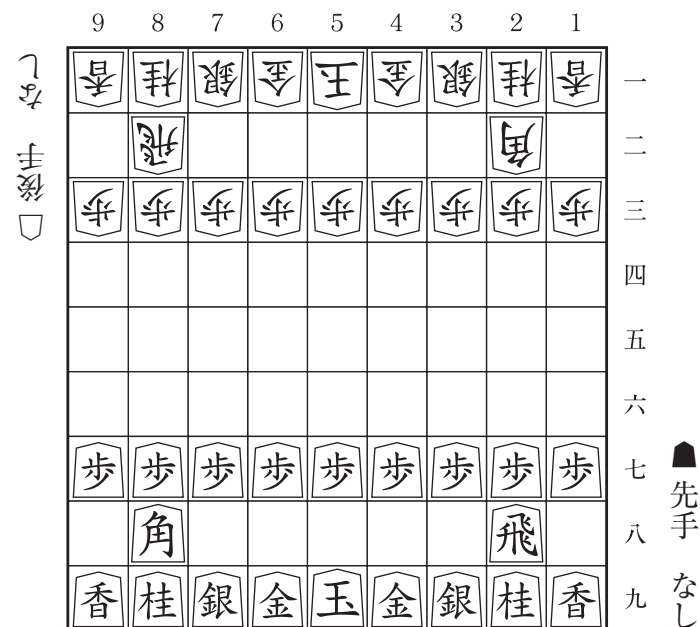
先手中飛車 5筋位取り

中飛車にとって5筋位取り（5筋の歩を五段目まで進める将棋）は基本がたくさんつまった大事な形。駒組みのパターンと、タイミングよく▲5四歩を突くコツを覚えましょう。

問題

1

まずはもともと基本となる「自分が先手で相手が居飛車の場合の指し方」から覚えていきましよう。先手中飛車を目指す場合、初手はどの筋の歩を突くのがよいでしょうか。



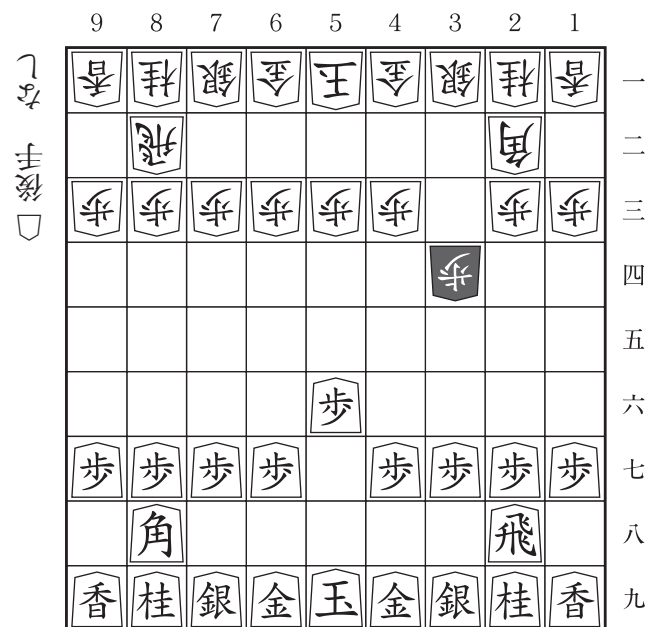
【問題図1】

問題

2

後手は△3四歩と角道をあけてきました。次の手も先手中飛車を目指す上で大事な一手です。

先手 なし



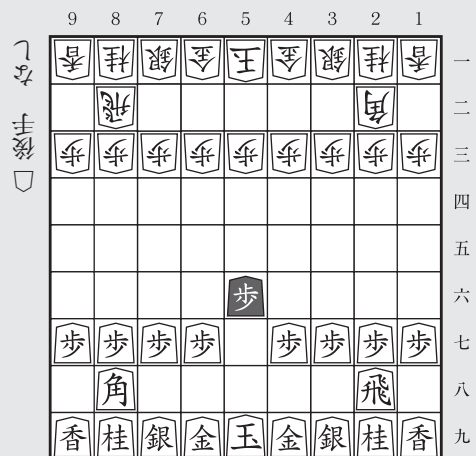
【問題図2は△3四歩まで】

解答

1

▲5六歩

先手 なし



【解答図1は▲5六歩まで】

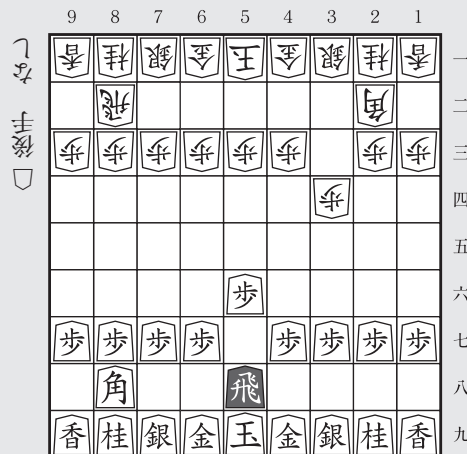
後手 なし

▲5八飛と飛車を5筋に振るのが正解です。たった3手で先手中飛車の基本の形ができました。なお解答の▲5八飛に変えて▲7六歩もありそうですが、それには後手から△8八角成と角交換され、△5七角と打ち込まれる手が気になります。

解答
2

▲5八飛

▲先手 なし



【解答図2は▲5八飛まで】

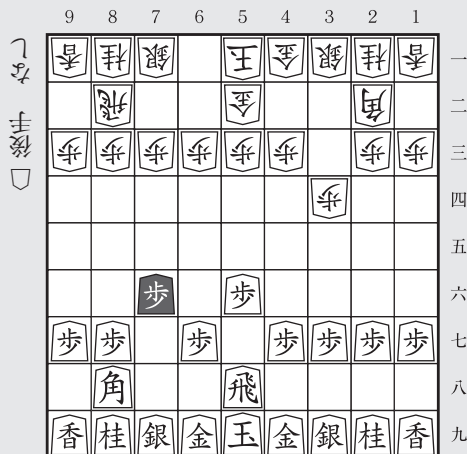
△後手 なし

ここで▲7六歩と角道をあけます。中飛車にかまえてからなら、次に△8八角成と角交換されても▲同銀と取って、角を打ち込まれるスキはありません。

解答
3

▲7六歩

▲先手 なし



【解答図3は▲7六歩まで】

△後手 なし

問題
3

中飛車に振った先手に対して、後手は△5二金右としました。5七の空間は飛車でカバーできたので、さらに攻撃の態勢を整えていきます。

▲先手 なし



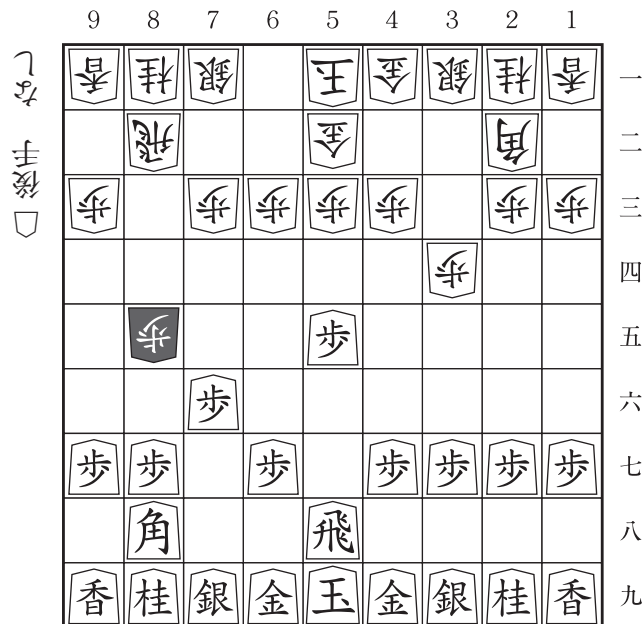
【問題図3は△5二金右まで】

△後手 なし

問題
4

解答図から△8四歩▲5五歩△8五歩と進みました。相手の飛車先の歩が五段目まで伸びてきたら、振り飛車党にはおなじみの手で歩を交換されるのを防ぎます。

▲先手 なし



【問題図4は△8五歩まで】

△後手 なし

相手の飛車先の歩が五段目まできたら▲七七角とあがってしっかりと受けます。この手はとても大事で、ほかの手を指すと△八六歩▲同歩△同飛と飛車先の歩を交換されて損をします。

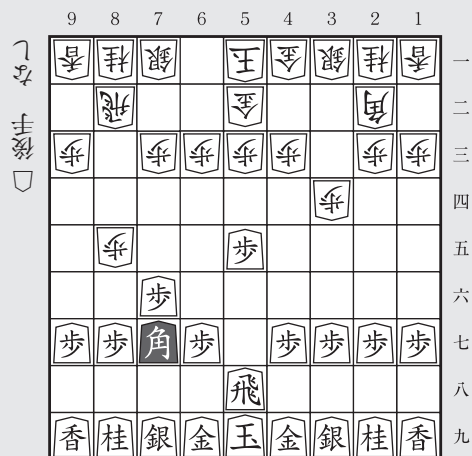
解答
4

▲七七角

基本

▲先手 なし

【解答図4は▲7七角まで】



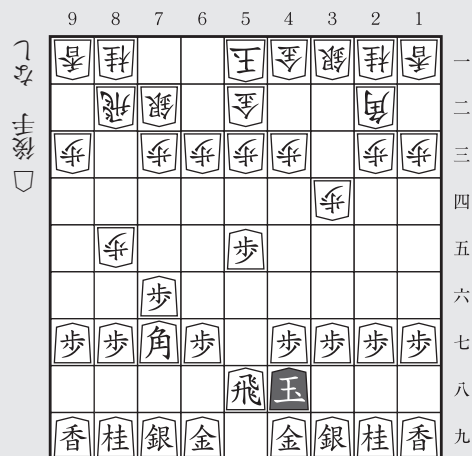
飛車を5筋に振ったら、まずは▲4八玉からしっかりと玉を右側に囲うことを覚えましょう。玉が居玉（5九）のままだと、戦いがはじまった時に思わぬところで流れ弾に当たることが多く危険です。

解答
5

▲4八玉

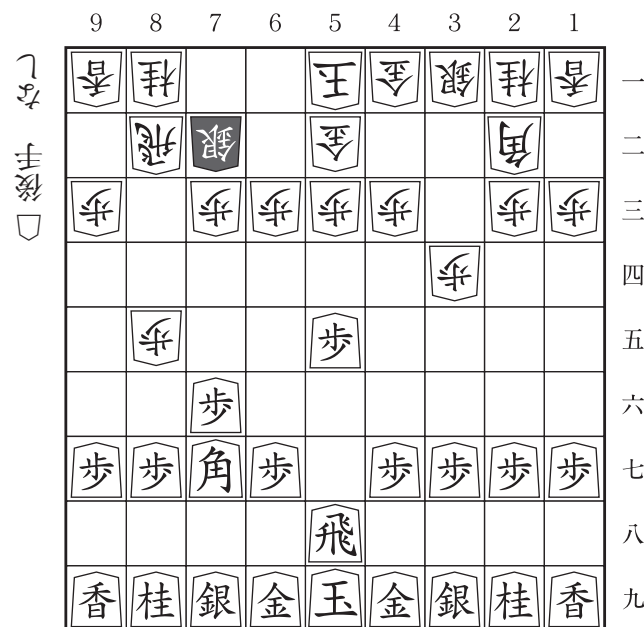
▲先手 なし

【解答図5は▲4八玉まで】



問題
5

【問題図5は△7二銀まで】

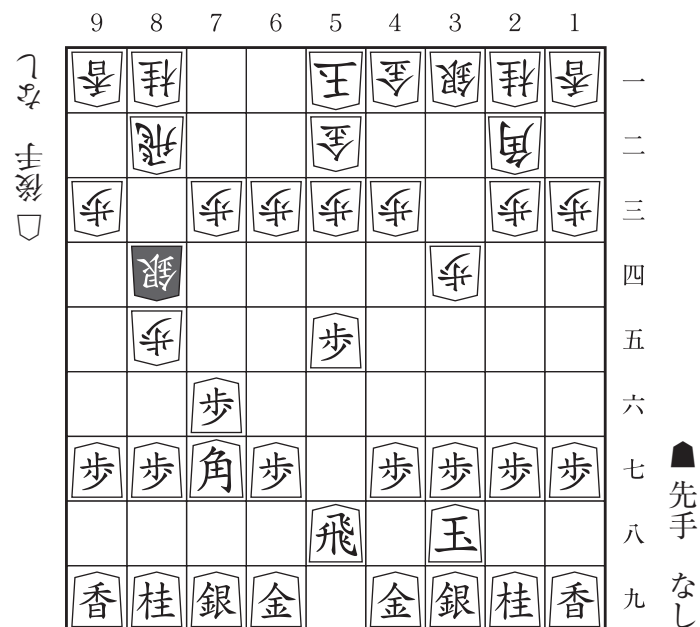


▲先手 なし

飛車先の歩を交換できなくなった後手は、前線に銀を繰り出そうと△7二銀としました。まだ銀が出てくるまで余裕があるので色々な手が考えられますが、優先したい手があります。

問題
6

【問題図6は△8四銀まで】



▲先手 なし

解答図から△8三銀▲3八玉△8四銀と、いよいよ後手の銀が前に出てきました。玉はしっかりと右側に寄せたので、そろそろ左銀（7九の銀）を活用したいところです。

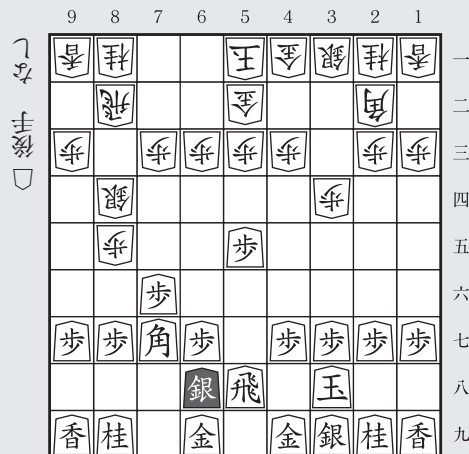
左銀の活用は中飛車の大きなポイント。一つはあがつておきたいところですが、▲8八銀や▲7八銀では自分の駒が邪魔で銀を前に進めることができません。中央を指して▲6八銀とするのが中飛車の長所を活かす指し方です。

解答
6

▲6八銀

▲先手 なし

【解答図6は▲6八銀まで】



▲5四歩と突くのが中飛車ならではの手筋。角道と飛車先がいつぺんにとおり、狙われそうな角をいつでも自分から交換できる形になりました。この▲5四歩をよいタイミングで突けるようになることが、中飛車上達への第一歩です。

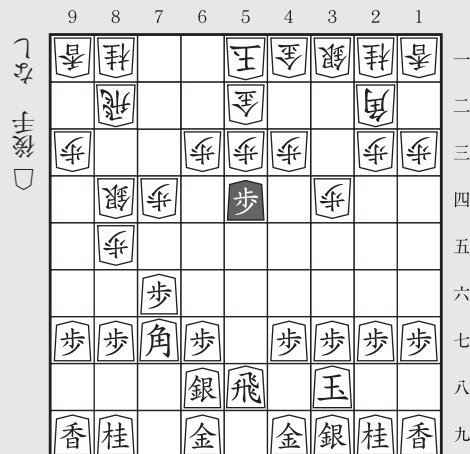
解答
7

▲5四歩

基本

▲先手 なし

【解答図7は▲5四歩まで】



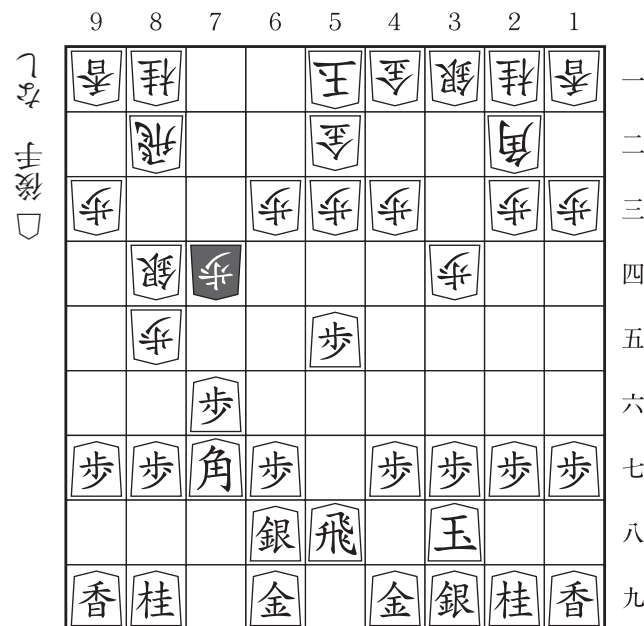
問題
7

7

後手は△7四歩ともう一枚歩を前進させてきました。四段目に後手の駒が二枚出てくると相手が攻めようとしているサイン。ここは相手の攻めがくる前に自分から動いていきます。

▲先手 なし

【問題図7は△7四歩まで】



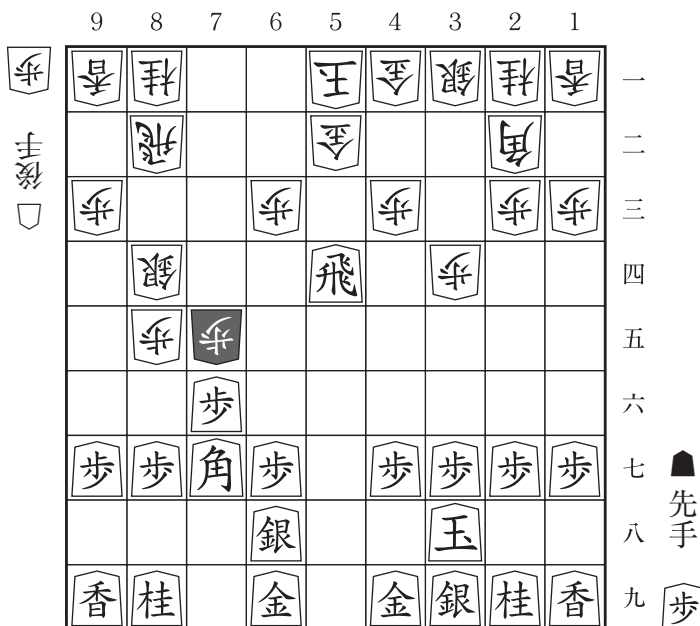
問題
8

8

解答図から△5四同歩▲同飛と一歩交換したあと、△7五歩と後手が角の頭を狙ってきました。ここで中飛車らしい大技があります。3手進めて決めてください。

▲先手 歩

【問題図8は△7五歩まで】



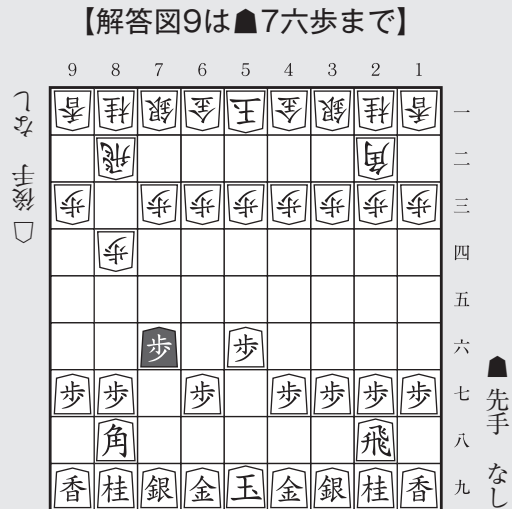
▲2二角成と角交換し、△同銀▲5五角と飛車銀両取りの大利が決まりました。角交換してからの▲5五角は中飛車でよく出てくる手筋で、常に狙い筋の一つです。相手が棒銀できた場合、多少違う局面でも応用できるので、ぜひ覚えてください。

解答 8
▲2二角成 △同銀
▲5五角
基本



▲5六歩に△8四歩と突かれた場合は▲7六歩と角道をあけます。こうしておけば次に△8五歩とされても▲7七角で受けることができます。

解答 9
▲7六歩



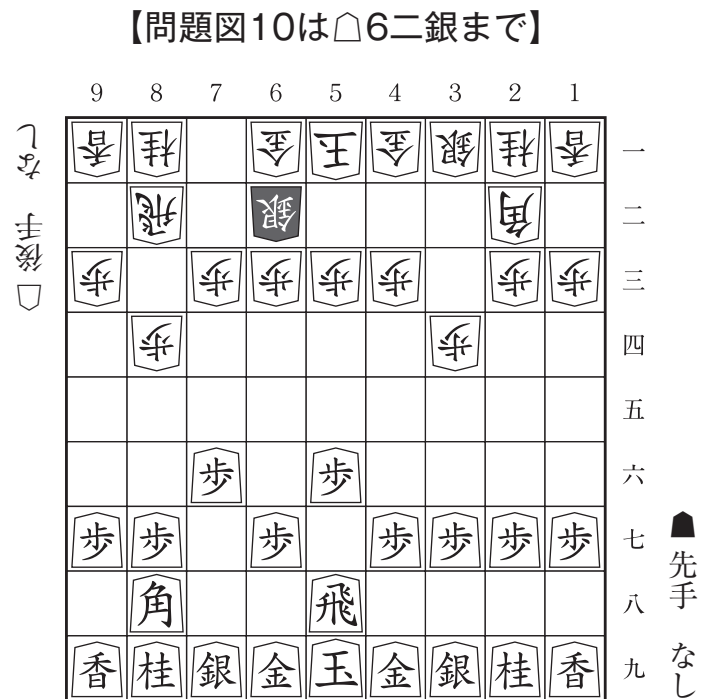
問題 9

初形図に戻ります。初手▲5六歩に対し、後手が△3四歩ではなく△8四歩と突いてきました。この場合は▲5八飛ではなくこの手を指します。



問題 10

解答図から△3四歩▲5八飛と進み、今度は後手が△6二銀としてきた場合を考えてみます。玉を右に寄せていつてもいいですが、ここは積極的に位を取りにいきましょう。

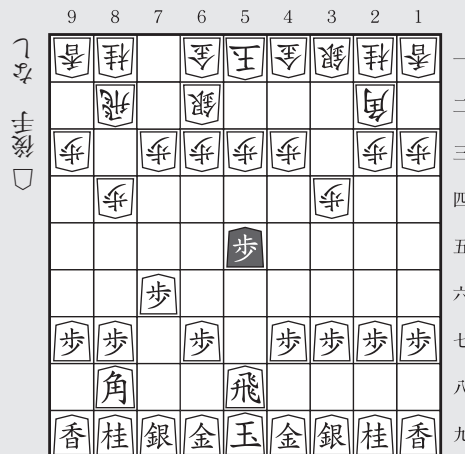


上から五段目のマス目を「位」と言いますが、中飛車で飛車先の位が取れそうなのは積極的に取りにいきましょう。ここからは玉を囲ったあとに▲5四歩を突くか、5六銀型を目指すのが基本になります。

解答
10

▲5五歩

▲先手 なし



【解答図10は▲5五歩まで】

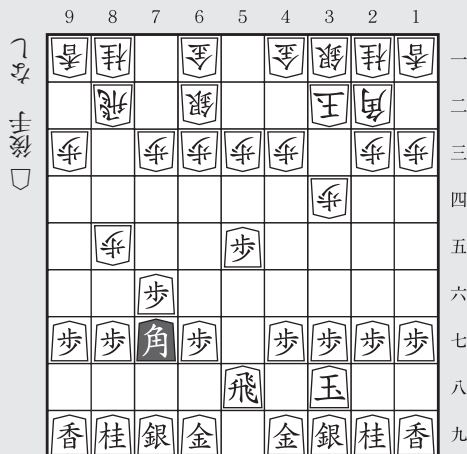
○後手 なし

相手が○8五歩まで飛車先の歩を突いてきたらどのタイミングでも必ず▲7七角とあがって受けます。角をあがらず○8六歩▲同歩○同飛となつてもいきなりつぶされることはありませんが、飛車先の歩を無条件で交換されるのはさげましでしょう。

解答
11

▲7七角

▲先手 なし



【解答図11は▲7七角まで】

○後手 なし

問題
11

解答図から○4二玉▲4八玉○3二玉▲3八玉と、互いに玉を二つずつ寄せてから、後手が○8五歩と突いてきました。まだ玉を囲っている途中ですが、○8五歩と突かれたらどうしますか。

▲先手 なし



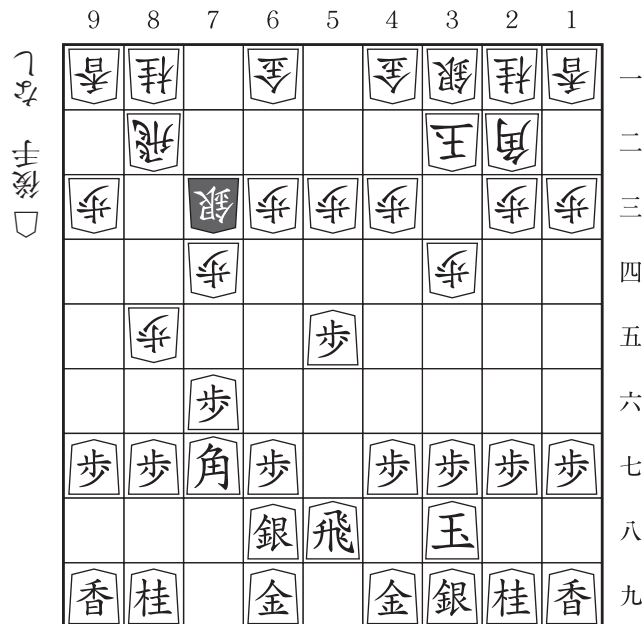
【問題図11は○8五歩まで】

○後手 なし

問題
12

解答図から○7四歩▲6八銀○7三銀と進み、後手は角頭を狙って攻めてきます。しかしまだ駒がぶつかかるまでは余裕があるので、2手かけて玉をしつかり囲いましょう（後手は○8四銀）。

▲先手 なし



【問題図12は○7三銀まで】

○後手 なし

後手が角頭を攻めるには△8四銀、△7五歩とまだ2手の余裕があります。その2手を有効に使って、▲2八玉△8四銀▲3八銀としつかり玉を囲いましょう。解答図の先手の囲いは「美濃囲い」といって、振り飛車の代表的な囲いの一つです。

解答
12
▲ 3 八 銀
▲ 2 八 玉
○ 8 四 銀



【解答図12は▲3八銀まで】

先ほどと違い後手も居玉ではありませんが、棒銀相手にはやはり▲5四歩と突いて角交換を挑みます。問題図で▲7五同歩△同銀としてから▲5四歩でも大丈夫ですが、相手の銀が前に出てくるので、ここで▲5四歩と突くのがいいでしょう。

解答
13
5
四歩

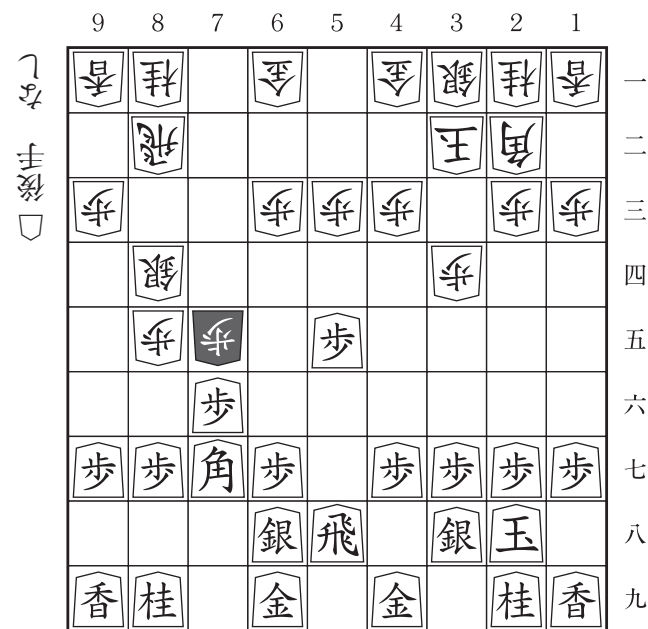


【解答図13は▲5四歩まで】

問題
13

続けて後手は△7五歩と突き、いよいよ駒がぶつかりました。今回は後手も玉を囲っています。角頭で歩がぶつかったらやはりこの手筋で反発していきます。

▲ 先手なし

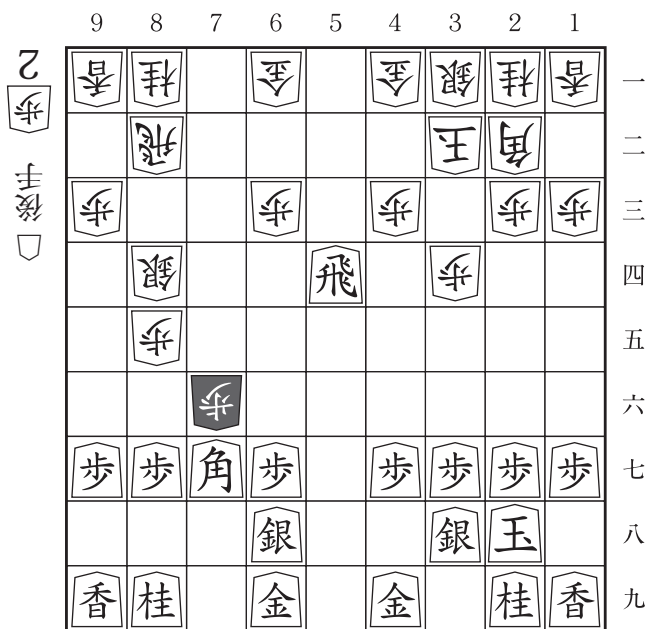


【問題図13は△7五歩まで】

問題 14

解答図からは△5四同歩▲同飛と進みます。そこからは後手の手段がいくつか分かれるところですが、まずは△7六歩と攻めてきた場合の対応を3手先まで考えてください。

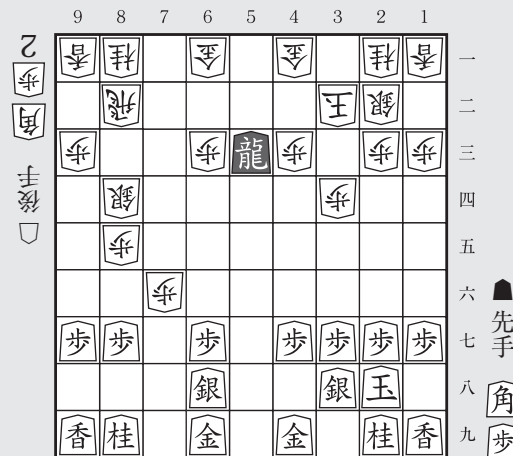
▲ 先手 歩



【問題図14は△7六歩まで】

▲2二角成と自分から角をさばき（交換し）、△同銀に▲5三飛成とすれば一方的に飛車を成り込んで先手が優勢です。解答図からは△4四角の両取りが気になりますが、それには▲同龍と取り、△同歩▲5四角とすれば攻めがつな갑니다。

解答 14
▲2二角成 △同銀
▲5三飛成



【解答図14は▲5三飛成まで】

パクツと歩をいただく▲3四飛が気持ちのいい手。王手なので後手も受ける必要がありますが、△3三角には▲同角成△同桂▲5五角が強烈。解答図からは△3三歩と防ぐくらいですが、角道が止まったため▲3六飛と飛車を引いて先手十分です。

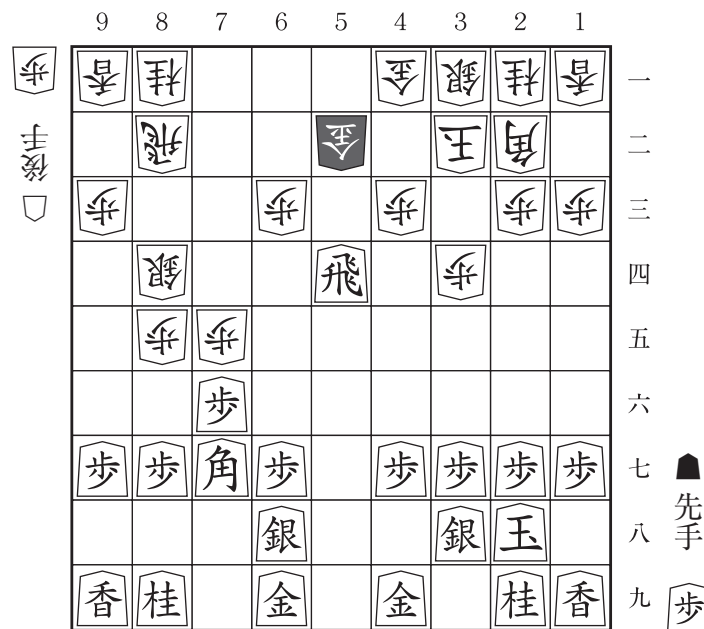
解答 15
▲3四飛



【解答図15は▲3四飛まで】

歩を取り込む手はうまくいかなかったため、後手は解答図13から△5四同歩▲同飛△5二金右と飛車成りを受けました。自分の飛車が四段目で、相手の玉が3二の場合は指したい手があります。

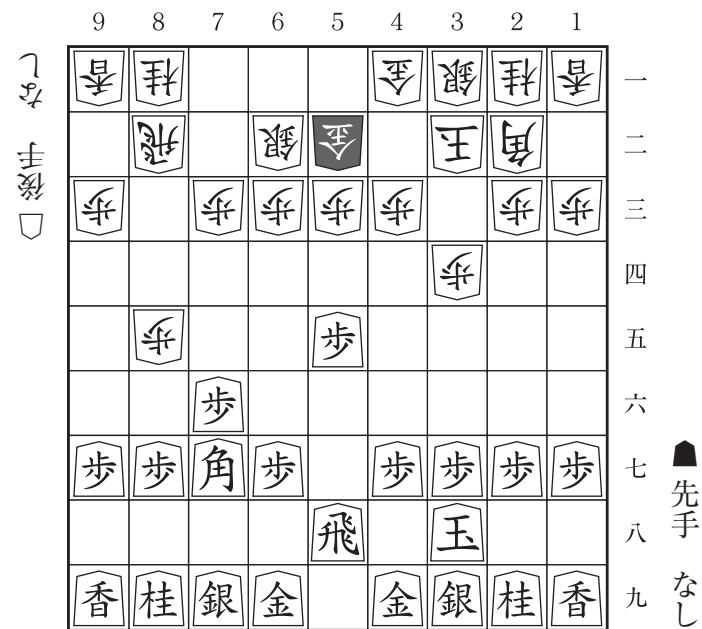
問題 15



【問題図15は△5二金右まで】

棒銀の攻めには▲5四歩の反撃が有効なことがわかりました。そこで後手は解答図11の▲7七角から△5二金右と中央を手厚くかまえてきました。これに対しても先手の対応は変わりません。

問題 16



【問題図16は△5二金右まで】

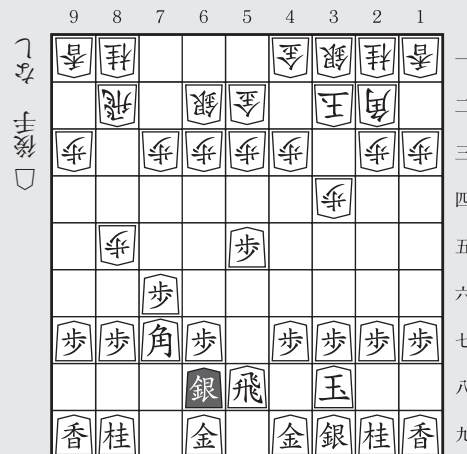
相手が中央を厚くしてきても▲6八銀とあがります。先手中飛車は序盤の指し手をパターン化できるのも魅力の一つ。飛車を振る、玉を二つ寄せてから銀をあがる、後手の飛車先が伸びてきたら角で受ける。このあたりは基本的にいつも同じです。

解答
16

▲6八銀

▲先手 なし

【解答図16は▲6八銀まで】



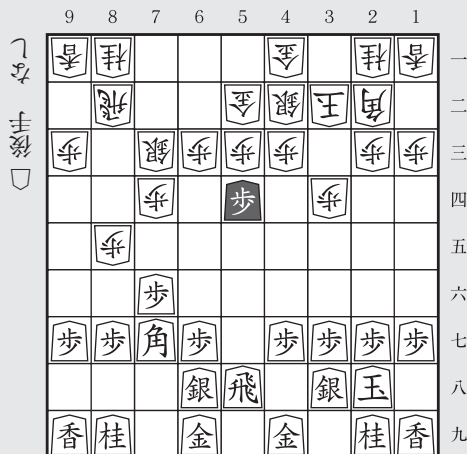
後手の銀が出てくる前に積極的に▲5四歩と動いていきます。対7三銀型で後手が△5二金右のように陣形整備に手をかけている場合はどのタイミングで▲5四歩を突くか迷うかもしれませんが、自玉を美濃に囲ってから突くのが一つの目安です。

解答
17

▲5四歩

▲先手 なし

【解答図17は▲5四歩まで】

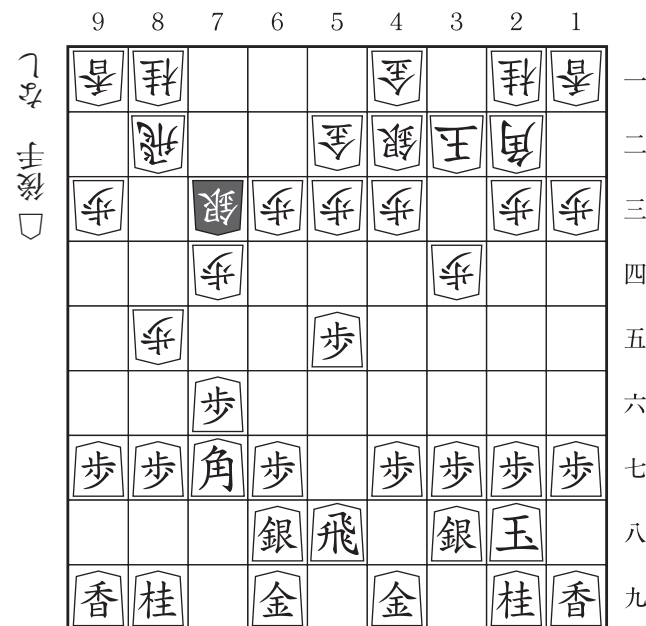


問題
17

解答図から△4二銀▲2八玉△7四歩▲3八銀△7三銀と進みました。最後の△7三銀は次に△6四銀と活用されるとやっかいなので、美濃囲いが完成したこのあたりで仕掛けていきます。

▲先手 なし

【問題図17は△7三銀まで】

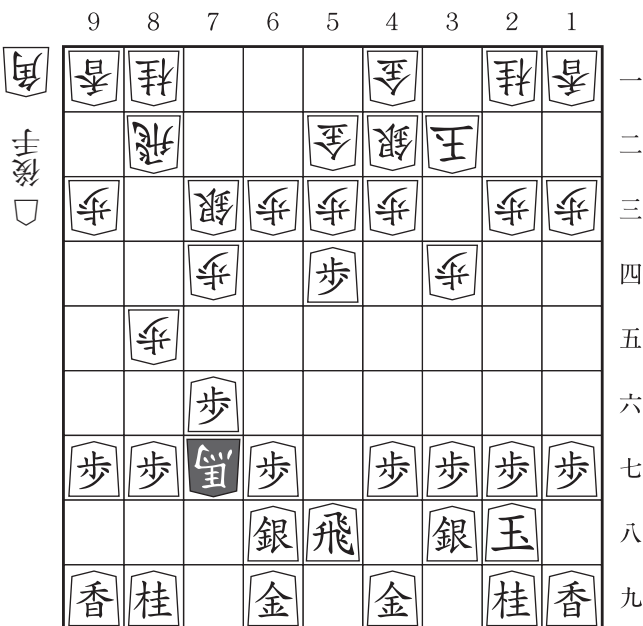


問題
18

解答図からは後手の対応が大きく分けて二とおりに分かります。まずは△7七角成と後手から角交換してきた場合を考えてみましょう。どの駒で取り返すのがスキのない形でしょうか。

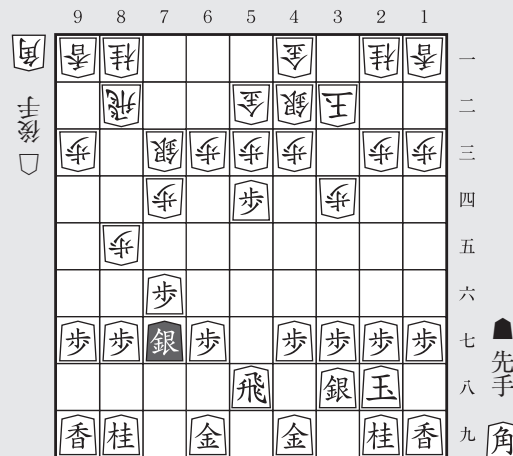
▲先手 なし

【問題図18は△7七角成まで】



▲7七同銀と取り返すのが形。銀が飛車先交換を防ぐとともに、△8八角の打ち込みを消しています。なお解答図17で△5四同歩なら▲2二角成とするのが有力。後手が△同玉としか取り返せない場合はのちの▲5五角が狙い筋となります。

解答 18 ▲7七同銀



【解答図18は▲7七同銀まで】

▲7一角と打つのが後手陣のスキをついた積極的な手。この角打ちの後手が金をあがっている場合によく出てくる手で、以下△7二飛▲2六角成で馬ができます。飛車を引く手も自然ですが、その前に得をする手がないか探してみることも重要です。

解答 19 ▲7一角 基本



【解答図19は▲7一角まで】

問題 19

解答図から△5四歩▲同飛△3三銀と進みました。5筋の歩を交換できたら▲5九飛と飛車を引きあげるのが普通ですが、ここではその前に指したい手があります。

▲先手 角 歩

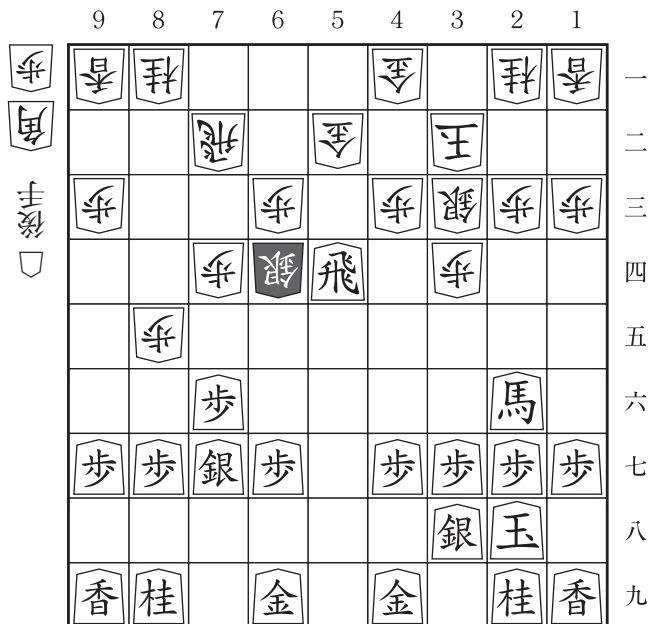


【問題図19は△3三銀まで】

問題 20

解答図から△7二飛▲2六角成で馬を作ったところから、後手は△6四銀とあがってきました。次に△5五歩と打たれて飛車の逃げ道をふさがれると困るので、ここは……。

▲先手 歩



【問題図20は△6四銀まで】

ここで▲5九飛と引きます。一步交換した後は一番下まで飛車を引くのが好位置となることが多く、中飛車の定番の形です。角打ちのスキがあれば先に角を打ちますが、スキがない場合でも一步交換して一番下まで飛車を引けば不満のない展開です。

解答
20

▲5九飛



【解答図20は▲5九飛まで】

ひとつ控えて打つ▲5四歩が正解。これは「たらしの歩」と呼ばれる手筋で、次の▲5三步成が狙いとなります。▲5三步と直接金の頭に打つと金を寄られて次が続きますが、▲5四歩は力をためる手として無駄になることはありません。

解答
21

▲5四歩

基本



【解答図21は▲5四歩まで】

問題
21

解答図から△7五歩▲同歩△同銀と進みました。ここで中飛車を指す上で絶対に覚えておきたい攻めの手筋があります。大駒の利きを活かす手を考えてください。

▲先手
△歩2



【問題図21は△7五同銀まで】

問題
22

▲5三步成と、と金を作られてはたまらないので後手も△4四銀と全力で受けてきますが、先手の攻めは止まりません。ここは強気に技をかけにいきましょう。3手先まで考えてください。

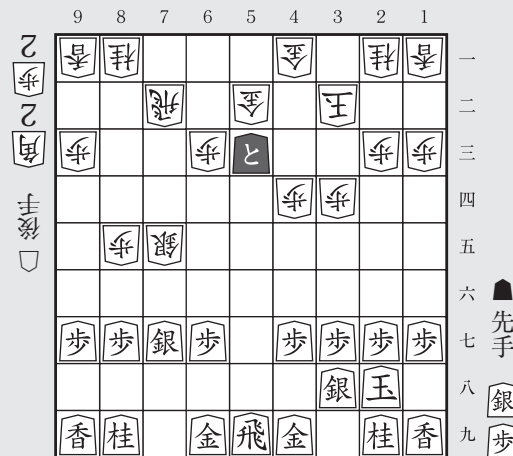
▲先手
△歩



【問題図22は△4四銀まで】

続きは商品で
ご覧ください

【解答図22は▲5三歩成まで】



解答
22

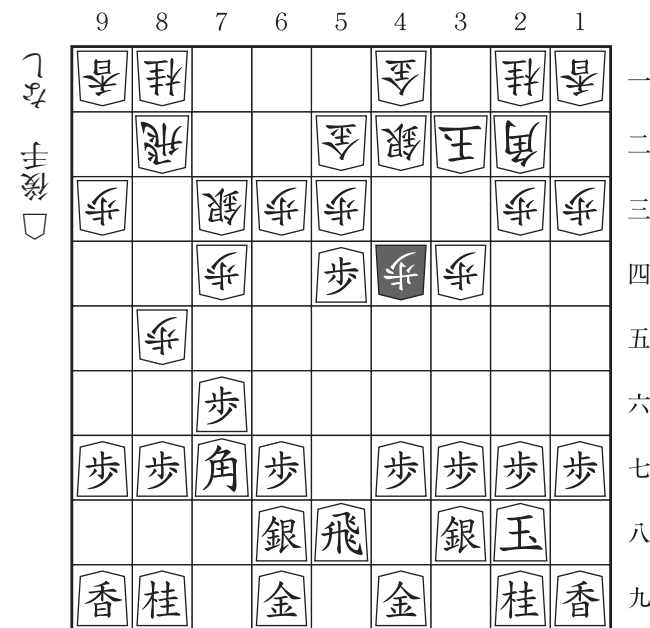
▲4四同馬
▲5三歩成

△同歩

▲先手
銀歩

▲4四同馬と馬を切り、△同歩▲5三歩成と攻め込みます。これは自陣の美濃囲いの堅さを活かした中飛車らしい攻めで、敵陣を突破して攻めが続くなら大駒を切ってもかまいません。なお、問題図から▲5三歩成△同金▲同飛成も正解です。

【問題図23は△4四歩まで】



問題
23

▲5四歩と突いた解答図17から、今度は後手が角交換を拒否して△4四歩とした場合を考えてみましょう。まずは一步を手持ちにします。

▲先手
なし